

第2回 美里町総合計画審議会 生活環境部会 会議録

| | |
|--------|-------------------------------|
| 年 月 日 | 令和2年7月21日（火） |
| 場 所 | 中央コミュニティセンター2階 第3研修室 |
| 審議開始時間 | 午前・ 午後 1時30分 |
| 出席委員 | 佐々木秀之委員 横山健也委員 佐々木文子委員 萱場るみ委員 |
| 欠席委員 | |
| 出席職員 | 菊地課長 花山課長 櫻井所長 小野課長 斎藤課長 |
| 審議終了時間 | 午前・ 午後 3時30分 |

審議開始

—午前・**午後** 1時30分 開始—

協議

発言者：内容

菊地町民生活課長：皆さん、大変ご苦労様でございます。若干、時間を経過しましたが、これから、第2回の生活環境部会を開催したいと思います。

横山委員さんですが、連絡がありまして、15分ぐらい遅れるということでありました。また、下水道課長兼水道事業所長ですが、緊急の漏水工事がありまして、本日は欠席との連絡がありました。では、部会長さん、よろしくお願いいたします。

佐々木生活環境部会長：はい。それでは今日もよろしくお願いいたします。

一 同：よろしくお願いいたします。

佐々木生活環境部会長：はい、それでは、今日は、第8章の政策8と政策10を行うことになっていました。それで、横山委員が少し遅れてきますので、政策10からいきたいと思います。

それでは、83ページの政策10の住民活動の促進からやりまして、政策8へ進めていきたいと思えます。それぞれに気になるところを、見ていただきたいと思えますけれども、ちょっと私のほうから1回、全部確認していきたいと思えます。

政策10では、住民活動の促進とありまして、10の中にぶら下がり、施策の29から31がついているということになります。

【政策10 施策29読上げ】

佐々木生活環境部会長：それではですね、施策29についてはいかがでしょうか。

数値が、こう19, 218人ということで。令和3年から、このようにしていますけれども、令和3年達成困難みたいなことになりかねないような気がしますね。

私の感覚ですと、このコロナのことを書くとか、この辺の対策は必要かなと思えました。

佐々木委員の方から、まずはこの施策29のことについてコメントを貰えますか。どんなことでもいいので。

佐々木委員：この19, 218人って、これどこから出てきていますか。

斎藤まちづくり推進課長：ご説明させていただきます。これは、この84ページもございますが、平成30年の実績19,

791人。これと、平成30年4月1日の人口割合をみますと、約80パーセントになります。ということで、令和7年度の推計人口に85パーセントを掛けて、出た数字が19,218人となります。

佐々木生活環境部会長：今さきほど、横山委員が到着しました。今日は政策の8と10を見ていくということだったので、政策10から始めておりましたので、83ページをお願いしたいと思います。

佐々木委員：質問、なんでもいいですか。

佐々木生活環境部会長：はい、なんでも。

佐々木委員：83ページの②施策を取り巻く現状と課題の、2つ目のところの一般財団法人自治総合センターの助成事業というのは、具体的にどういうところなのか教えてください。よく、テントを買ったとか、いろんな備品を買うっていうのは聞きますが、これは、どういう団体ですか。

齋藤まちづくり推進課長：これは、宝くじを運営するという団体で、宝くじの収益からの助成金となります。

町は、地域からの要望を吸い上げ、宮城県を通じて、この自治総合センターに助成申請をします。認められたものについて、物品の購入、地域の集会所等の建設の経費の補助を行っているということです。

佐々木生活環境部会長：これまでこの助成で支援してきたけれども、それがなくなるのか、それでは足りないのか、この辺はどういうニュアンスですか。

齋藤まちづくり推進課長：ここ数年美里町に助成される分は、一般コミュニティ助成と言いまして、地域の活動で使う備品等で、概ね2つの団体に助成されていまして、また、「一方で」という部分では、地域では、高齢化、人口の減少、世帯数が減少しているところもありまして、地域で集会所を建てなおしたくても建てなおせないような地域もあります。その部分を、「一方では」以降に示しているところでございます。

佐々木生活環境部会長：施設の維持には住民の力が欠かせないが、高齢化等により集会所の今後の維持には課題があるということですよ。分かりました。

それでは、先に進めていきます。施策30はですね、地域間交流を促進するための対策です。

【施策30 読上げ】

佐々木生活環境部会長：これに対する目標となる指標は、地域間交流人口としています。災害時の相互応援に限定せず、日頃からの交流が重要であることから、地域間の交流人口を指標とします。それで、240人から250人に増えていっていると。平成30年の実績が152人ですので、結構な上積みがされています。この数字は、どこからでてきたのですか。

齋藤まちづくり推進課長：この人数は、施策に書いてある自治体と、それに対して、美里町及び町の関係団体等が、イベント等で参加した住民及び関係団体の皆さんも含め、交流があった人数を計上しています。例えば、会津美里町で行われているお祭りに、観光物産協会の職員の方が行った人数、向こうから美里町の田園フェスティバルに去年来た人を数えた結果の人数でございます。

佐々木生活環境部会長：これは、こっちから行く人も入っているということですか。

齋藤まちづくり推進課長：行く人も、来た人も入っています。

佐々木生活環境部会長：そうすると、この指標を達成しようと思ったときに、足りないなと思ったら、ちょっと役場で声をかけて50人ぐらいで行くと達成するということですか。

齋藤まちづくり推進課長：その辺につきましては、実際に役場職員とか関係団体の方だけじゃなくて、一般の住民の方と、交流していただく機会を作っていきたいと考えているところです。

佐々木生活環境部会長：そうですね。それであれば、行くもいいですけど、こちら側の受け入れ体制も重要になってきますよね。それで、交流人口、関係人口という言葉も使っていましたよね。

齋藤まちづくり推進課長：そうですね、今回は全部、関係人口に直しています。現行の計画では交流人口、今回は、関係人口という言葉を使っています。

佐々木生活環境部会長：前の地方創生では、首都圏からの移住を、国は進めていたのですけれども、結局無理なので、まずは関係性を作るということで、関係人口という言葉がここ数年で出てきました。なので、関係人口って何かと思いますが、まずは、関係性を築きましょうということですよ。

齋藤まちづくり推進課長：そうです。直接いらっしゃらなくても、ふるさと応援寄付金、ふるさと納税の関係で地方支援していただく関係の方とかを含めて増やしていきたいと考えています。

佐々木生活環境部会長：そうですね、その辺をちょっとでもいいから書いてもらって、そういう人を関係人口として、例えば寄附してくれる人も、1とカウントするということですよ。

齋藤まちづくり推進課長：ここはでも、前からの引継ぎで同じような指標を持っているところがあります。

佐々木生活環境部会長：それでは、意見ありましたらどうでしょうか、この施策30で。

萱場委員：すみません、基本的な質問ですけれども。

佐々木生活環境部会長：そういうのは大歓迎です。

萱場委員：すみません。施策29の指標では、延べ人数って括弧で書いてありましたが、この30と31の方は、特にそういう記載はありません。実人数なのか、これも述べ人数なのか、教えてください。

齋藤まちづくり推進課長：すみません。延べになります。同じ人がカウントされることもありますので、延べ人数と追記したいと思います。

佐々木生活環境部会長：施策29は、もう地域内の住民の参加人数ですよ。施策30は、今度は地域外の話をしている訳ですよ。

齋藤まちづくり推進課長：地域外との交流です。

佐々木生活環境部会長：あくまで、ここに書いてあるのは自発的なものですね。それでは、施策31も進めていきましょうか。気になったらすぐ発言していただいてもかまいません。私を遮っていただいて、いっこうに構いません。では、85ページですね。施策31、国際交流を促進するための対策ということですよ。

【施策31 読上げ】

佐々木生活環境部会長：そして、ここで重要となってくる施策は、国際交流事業への参加者数です。更なる国際化社会に向けて、多文化へ興味関心を持つ人の増加は、国際化社会への進展につながることから、国際交流事業への参加者数を指標とします。例によってこの数字670ってどこから出てきたか、簡潔にお願いします。

齋藤まちづくり推進課長：延べ人数です。この人数というのは1年間、春それから秋に大きなイベントを行っています。春というのがスプリング・フェスタと言いまして、ウイノナ市から来る方々を受け入れして、交流するというイベントです。秋には、オータム・フェスタというものを行っています。その他に、10月には中学生及び高校生、一般の方で、中高生のアメリカへの派遣事業を行っています。そのイベント等に参加していただいた方の延べ人数ということになります。

佐々木生活環境部会長：そうですね、これ、本当に素晴らしいとしか言いようのない事業です。しかし、この状況下で今実施されても大変なので、この数字をここに書きちゃったらやらずにちゃいけないのかなという風にならないように、どこかに一筆書いておいた方がいいような気がします。

齋藤まちづくり推進課長：最初は今年の4月、来る予定で準備を進めていたのですが、日本の方である程度流行が始まりまして、本町では感染者はいなかったのですが、ウイノナが4月ぐらいから感染者が

出て、現在ではウイノナの方が酷いというような状況です。今年の10月の中高生の派遣については、既に中止ということになっています。

佐々木生活環境部会長：まあ、そこまで分かっているのなら、書いてあるとやんなくちゃいけないということになったりするんで、いい方法はないでしょうか。

齋藤まちづくり推進課長：コロナの対応については、まちづくり推進課の指標だけではなく、他のところも色々影響があるので、見直しをしたうえで周知していくのか、もしくはコロナの影響があるということで結果、目標は目標でという結果で捉えていくのかということについては、全体的に合せて考えさせていただきたいと思います。

佐々木生活環境部会長：それじゃ、後は全体で調整してもらおうということですね。

齋藤まちづくり推進課長：はい。

佐々木生活環境部会長：それでは、すごく重要なことなので、子供達も国際的な意識を持ってもらうというのは、コロナの世代だけ抜けちゃうっていうのは、美里の子供達可哀想ですよ。今、授業も映像とかで行っていますけど、そんなにお金もかからず、それと同じく実際の効果は得られないですけど、なにを考えてみるのは大事ですね。映像を使ってみるとか、美里に住んでいる外国人もいらっしゃるので、そういう方と触れ合わせるとか、身近でできるようなことを、地域の方々に意識を持ってもらうということが、重要かもしれませんね。結果として、住民活動が促進されればいい訳です。

佐々木委員：コロナが関係なければ、この数字よりは上回ることが可能なぐらいの数字ですよ。

佐々木生活環境部会長：はい。

佐々木委員：ここ2、3年に限っては、大々的にウイノナの方が来た時はバスケットボールの試合や、ウイノナに行かなかった中学生とかも来て、会場には200人しか入れませんよって制限するくらいでしたよ。

齋藤まちづくり推進課長：そうですね。

佐々木委員：これから、すべての行事もそうだけれども、ウイノナに行けなかった子供達に、美里町にも海外から来た人や、アメリカからALTでいらしてる方とかいらっしゃる訳だから、そういう方達と交流みたいなのがあれば、ウイノナに行けなくても、ウイノナから美里に来なくても、映像を使っての交流をしたらいいのかなと感じました。これは国際交流協会の問題にもなりますけど、どんどんそういうことをやればいいのかと思います。それが、この人数に入るかどうかは別として、事業だけは、国際交流事業の継続、という形でできるのかなって、ちょっと今、勉強させていただきました。

佐々木生活環境部会長：我々にとっては、1年間だけやらないということにはなりますけども、その時にあたった子供は、ずっと私たちの世代はやってもらえなかったって言いますからね。なので、町と協力しながら、Zoomとか、いろいろなことに挑戦しますみたいなことを施策の展開として、1行くらい突っ込んでもいいのではないですかね。

横山委員：質問。

佐々木生活環境部会長：はい、どうぞ。

横山委員：27年と30年の実績で、200人以上、交流している人口が増えているけれども、年々そんな感じで、増える状況にあるのでしょうか。それとも、なんか30年が特別なイベントとかあったので特に多かったとか、教えてください。

齋藤まちづくり推進課長：数字の動きは手元に持っているデータがあるので、それでお知らせしたいと思います。今、86ページにある通り、平成27年は714。次の平成28年度は1,070、その次の29年度は810。それで、ここに書いてある通り、30年が950というところでございます。

佐々木生活環境部会長：これはイベントだから、天候とかに左右されているのかな。

齋藤まちづくり推進課長：イベントをする会場によっても変わります。トレーニングセンターという、大きい体育館で行ったり、駅東にある交流センターのあまり大きくない多目的ホールで行ったりという部分で、対象者に出すチケットの数も制限したりして、そういう部分もあったと考えております。

菊地町民生活課長：平成29年は国際交流の20周年事業でウィノナから2回来町しています。

佐々木委員：トレセンでやった時だね。バスケットボールの交流試合を行ったりして、会場の人達も、随分盛り上がって、ほとんどの中学生が集まってくれましたよ。

齋藤まちづくり推進課長：そういうようなところで、やるイベント会場によって差も出てくるのかなと。

佐々木生活環境部会長：そうですね。

横山委員：ありがとうございます。

佐々木生活環境部会長：私もいろいろと美里の各地区、いろいろ周らせてもらいました。やっぱり美里の良さっていうのは、変に無理しないで、継続して事業を行っているのがすごいと思います。今回このコロナで、こういったところの関係性が切れてしまうという方が怖いと思うので、海外とオンラインとかの活用で、交流イベントを継続展開することを図るみたいなことを入れておきたいですね。あと、自治体との交流も、こういう状況ですので、関係性を継続するって意味合いでも、オンラインとかを活用した対策を入れておくということはどうですかね。

横山さん、ここまでいかがですか。

横山委員：さっき言った、こういう国際交流、非常に関心がありましてね。

佐々木生活環境部会長：そうですね。

横山委員：町として、ある程度やるからには次の代につなげないとね。やらないと、なんでやらないのかっていうことになるでしょうから。

佐々木生活環境部会長：まあ、コロナだからできませんでしたって言えば終わっちゃいますけど、それだけで終わらないように、なにかこう町として、新しい生活体系にどう適応するかっていうのが、問われています。海外もオンラインとか、地域間交流も新たな手法での新たな交流を生み出しますっていう目的だから、いい訳ですよ。オンラインで、数字は達成しなかったけれども、新しい形で自治体間と繋がりましたっていうことが、ちゃんと言えれば、地域における住民の活動を活性化するための対策に繋がると思いますよ。

横山委員：やり方を考えるということですね。

佐々木生活環境部会長：そうですね、ここは考えないといけないですね。駄目なのを分かっている、そのままあげる訳にはいきません。ここでは、今あるものを活性化させるって書いてあるので、今までやってきたことに、ちょっとオンラインとか、新しいことをくっつけるだけでもいいと思います。

施策29の修繕費の問題がここに書いてありますが、修繕費のお金もなくなっているからこそ、地域の人たちが担っていくことになっていきますが、ただ単に、やれと言われても嫌ですから、活性化ということで皆が参加したくなるようなアイデアを、考えを出していただきたいと思います。

では、施策8に入ります。

【政策8 施策21 読上げ】

佐々木生活環境部会長：指標は3つですね。非常用電源の確保率ですね。安全、安心な防災体制を確立するための対策として、全ての防災関連施設に非常用電源を配備しており、その体制の維持を指標とします。これは実績が100に対して、そのまま100パーセントで変わりなく維持していきます。非常時の通信手段の確保率。安全、安心な防災体制を確立するための対策として、全ての防災関連施設に通信手段である無線を配備しており、その体制の維持を指標とします。これは、いま100であることが、

100そのままということですね。

自主防災組織の組織率。非常時における共助の重要性、地域防災力の向上を図るため、自主防災組織の組織化を推進し、平成27年度までに全ての行政区に自主防災組織が設立されており、主体的な活動の支援、連携強化を進める上で、組織率の維持を指標とします。ということで、平成30年を100としています。それをそのまま維持するというので、課題はいろいろと出ていたのですが、基本的には物と組織ですね。配置したものをきちんと維持しようということになってくることになります。

はい、では施策21になにかございましたらお願いします。

横山委員：はい。

佐々木生活環境部長：お願いします。

横山委員：私、事あるごとに、議員さんの懇談会に参加した場合、防災無線の話をしします。そもそも防災無線というのは、災害を防ぐためにあると思います。あと、いろんな伝達をするためにあると思うのですが、それが、役に立たないということなのです。風が強い時、台風とかに流しても聞こえない。美里町も昨年の19号の台風の時も防災無線で放送しましたが、すごい雨と風では聞こえなかったのです。美里町は、最初は南郷地区でやりました。小牛田地区でやる場合には、戸別でやった方がいいですよっていうことを、個人の意見ではありますが言いました。でも、やはり南郷と同じように鉄塔でした。戸別はやらなかったですけども、それに対して、68ページに書いてありますように戸別新規の設置の推進となっていけども、これは3万円、4万円かかますよね。

佐々木委員：お金かかりますね。

横山委員：他の地域では、戸別に設置している訳ですよ。町としては予算があるのでしょけれども、いっぺんにやろうとするからできないのです。例えば10年計画でも、20年計画でもいいのではないですか。順にやって、トータル的に1軒1軒に付くようにすればいいのです。このようなことを事あるごとにお話しはしていますけど、予算の関係で難しい面があると言われます。

佐々木生活環境部長：美里の目標は、災害から住民の命を守るということなのに、指標は維持だけなので、少し入れていかないとなにもしないって見えちゃうこともあります。維持することが重要だっていうことはよく分かりますが、今、おっしゃっていたのは各家庭に、どうケアしていくかっていう話だと思えます。町として、一人一人の命をどのように守るっていう、納得感あるものが記載されているといい訳ですよ。

小野防災管財課長：横山さんのおっしゃることは理解できますが、防災無線のそもそもからすれば、広い範囲のエリア、外で作業をしている人もいます。無線として広くお伝えするという事は、聞こえにくいとかがあっても、大切だと思っています。ただ、おっしゃったとおり、夜でしたり、風が強いと尚更聞こえにくいという話は、理解できます。しかし、戸別受信機の方がいいといった場合、なかなか国の支援が受けられないのです。今回は、どういう形でできるかを考えながら、次期計画期間としては、今のままの通信手段を多様に使っていきたいと思っていますので、よろしくをお願いします。

佐々木生活環境部長：そのようなことを書いておけば、いいじゃないですか。新しい手段も活用した地域コミュニティと一緒に住民の命を守る方策を議論しますとか。大事なのは、聞こえないことが問題だけじゃなくて、それによって、逃げ遅れる方が出ることが問題だと思えますので、そうならないように、皆で対策を考える、議論するっていうことを、施策の展開として置いていただきたいと思えます。

防災だからということですけども、日頃の、コミュニケーションが重要なので、ここで無理に、防災のためにSNSみたいなものを作るということだけじゃなくて、平時に使っているものを活用していくっていう、視点の切り替えも必要かもしれないですね。

小野防災管財課長：そうですね。

佐々木生活環境部会長：横山さんが言った議論はですね、非常に重要な話です。デジタル技術って想像がつかないので、そういうものを、どう生かしていくかの話し合いの場を設けるといふことを入れておいていただくと、いかようにも取れるのではないかなと思います。

ところで、防団員も今、人がいなくなっているって書いていましたけど、私もかつて消防団に入っていました。

一 同：え。

佐々木生活環境部会長：13年やりまして。辞めたというか、忙しくてやれなくなったのですけれども、震災前、ポンプ操法とかに出てですね。

佐々木委員：そうですか。

佐々木生活環境部会長：学生にも消防団に入りたいからといって、入った生徒がいました。やっぱり、楽しさなんかを教えて、啓蒙していくことが大事だと思います。あと、就職活動でプラスになるかもよ、とかですね。

佐々木委員：それはなりますよね。

佐々木生活環境部会長：けっこう消防団に入っている女性の方って、医療とか看護とかに関わっている女性の方が案外いらっしゃるんですよ。入ってみようかなって思いませんか。

茅場委員：そうですね、放水作業とか言われると、ちょっと重そうですね。なにか力作業じゃないものがないですね。

佐々木生活環境部会長：そうですね。

茅場委員：ものとかであれば、お役に立てることもあるのかなと思います。

佐々木生活環境部会長：消防団も団員が少ないから、考えておかないとなりませんね。いきなり敬礼させられて、ずっと行進させられて消火活動をやって、いずれにせよ、男性的ですね。男女関係ないですけども、これをやりたいかって言われたら、あんまりやりたくないですね。

佐々木委員：美里町にも女性消防団がいます。

佐々木生活環境部会長：素晴らしいですね。

佐々木委員：女性消防に、全国大会のために結成して大会に出た人が、その後消防団員として活動していますよ。

佐々木生活環境部会長：それは、先進的ですよ。そういう方々の意見も聞きながら、啓蒙活動とかを広げていく構想もありだと思います。消防団活動は、一方で、有事の時は最前線で活動しなくちゃいけないって、危険性が伴うので、それもセットで考える場も作っておく必要がありますよね。消防団で、川にパトロールに行くと、足滑らして川に落ちて亡くなったとかっていう事件もありますから、難しいところですよ。最後に、施策22、読み上げていきたいです。

【施策22 読上げ】

佐々木生活環境部会長：施策の指標は2つありまして、交通死亡事故の発生件数で、安全、安心なまちづくりを目指し、交通死亡事故の発生件数を指標とし、目標値をゼロに設定します。安全、安心なまちづくりを目指し、声かけ事案等の発生件数を指標とし、目標値をゼロに設定します。交通事故、交通死亡事故ですね。もうひとつは、これ不審者から声かけられるみたいな話だと思いますけども、これをゼロにする。これは、警察に通報があった数でカウントしているのですか。

小野防災管財課長：そうですね、警察の統計数値です。

佐々木生活環境部会長：これはゼロでない困るものなので。この辺、なにかありますか。
はい、お願いします。

横山委員：1日と15日かな、交通安全日で行っていますね。小牛田地区もやっていますか。

小野防災管財課長：交通安全協会は、小牛田地区と南郷では活動が分かれています。ですから、必ず全て地区で一緒ということではないと思います。一緒の取り組みはありますけども、南郷だと南郷庁舎の方に事務局の方がいて、交通安全協会の事務局になっています。小牛田だと、遠田警察署の方に事務局の方がいて、活動の仕方は、同じ動きではないところはあります。

横山委員：防災無線で、1日と15日「今日は交通安全日です」ということで、放送があります。交通安全日に7時から8時まで交差点に立っていますけど、年寄りも、中学生も皆自家用車で送り迎えするから、あまり人が歩いていません。

小野防災管財課長：南郷の佐野あたりだと、私達が学生の頃だと、まだ学校に歩いていく途中でした。今は、もうスクールバスになっていますので、交差点に立っていることが、PRにはなっていますが、歩行者がなかなかいませんので、どこに向けてやる活動なのかっていうことを考えていく必要もあります。交通安全協会で、社会の変化の中、いろいろな意見が出てきていると思いますので、考える必要があるのかとは思っています。

佐々木生活環境部会長：確かに暇ですけども、立っていると、運転手さんからしてみると、警察官か指導隊か区別がつかないから、抑止力になりますね。常日頃、見慣れていて、その抑止の目がなくなると、犯罪者になる可能性って、誰もが秘めている訳で、見られているっていうことで、抑止力になっている訳です。町として、コミュニティの中の貢献っていうものを、きちんと評価する事も大事だと思います。誰も通らないけど、立っていることが、地域にとって役に立っているのだっていうことを、ちゃんと評価していただきたいと思います。見ていらっしゃる方は、なにか異変があると気付きます。そういう方々からの、情報とかをどう共有するか。これからは情報が大事です。

地域の現地で立っている方は、日頃との違いに気付かれますので、そういうものを今回、交通事故と犯罪から住民を守るということですから、体制っていうものを、中に読み込めるといいような気がしますね。聞いていて思ったところです。

小野防災管財課長：そうですね。交通安全っていうと、役場が直接っていうよりは、地域の皆さんの活動がすごく大切で、知っている人が立っている、活動してくれているのだからっていうのが、皆さんには見えていることで、死亡事故1000日以上を達成しているのだと思います。南郷地域のこれまでの活動も、貢献している部分はあるのではないかと考えているところです。

持続の限界っていうところもありますので、団体と一体になって、その取組の現状や課題というのも、お話ししていただき、引き続き、取り組みを推進していただければと思っていますところです。

佐々木生活環境部会長：そうですね。活動の支援というのはいろいろあって、お金を出すだけじゃなくて、1000日の死亡事故ゼロを達成しているということ自体が、皆さんの努力の賜物なので、ちゃんと気持ちとして伝わるようにしていきたいですね。

小野防災管財課長：そうですね。

佐々木生活環境部会長：そういうものをきちんと、やっていくっていうことが大事だと思います。

小野防災管財課長：県内で、数箇所くらいしかないのです。1000日達成しているのは。

佐々木生活環境部会長：ですよね。

小野防災管財課長：これも町っていうよりは、警察署から表彰を町で結果をお知らせしPRしています。宮城県警でランクではないですけど、南郷、小牛田とも何日達成ということで、上位にあるような状況です。双方の地域で、事故はありますけど、死亡事故まで至るような大きな事故は発生していないっていうのは、警察署からも高く評価されているところです。

佐々木生活環境部会長：本当に素晴らしいことが、行われていますので、無理になにかをやるというよりは、こういうことはきちんと持続していくっていうことがすごく大事だと思います。それを担っている方を、きち

んと評価というか、敬意の念を評しながら、そういった方々に感謝の気持ちが伝わるような施策の展開は、美里らしいような気がしますね。

これまで、一通り、今日のところは読みましたので、次回はですね。また、来週は午前中になりますけども、9番、10番そんな感じで読んでいきます。このような形で、次週もやっていきたいと思います。あと、なにか今のところでですね。なにかちょっと、ご発言をお願いしたいと思います。

佐々木委員：私も今日は、婦人防火クラブ連合会ということで、代表で参加して、68ページの施策の展開のところで、住民、消防団を始めとする関係団体に入るとしておりました。70ページのところで、交通安全母の会連合会って書いてあったので、母の会と連合会、婦防は両輪でずっとやってきたのに、総合計画では、交通安全母の会だけ出て、婦防がないのは不満がありまして、関係団体のところに、名前を入れていただければいいですね。

小野防災管財課長：そうですね。

佐々木生活環境部会長：やっぱり消防団と、婦人防火クラブは両輪なのでね。

それはやっぱり、入れておいた方がいいですね。

佐々木委員：はい、よろしくお願いします。

佐々木生活環境部会長：こうして名前を入れることが、敬意を評すということですので、入れるべきものっていうのがありますので、入れておいた方がいいですね。

佐々木委員：目にした時に私達の団体だって、やる気も出ます。

小野防災管財課長：はい。

佐々木生活環境部会長：ボランティアでやっていただいているようなものは、そういう失礼があっては絶対いけないのでね。載ったら載ったで、今度、更に頑張ってくれる可能性があります。役場として配慮して、業者とは違いますので、きちんと対応するっていうのは大事だと思います。

小野防災管財課長：ありがとうございます。

茅場委員：いいでしょうか。

佐々木生活環境部会長：はい、どうぞ。

茅場委員：声かけ事案の発生件数の指標として、現行の計画でも、次の計画でも記載してありますが、いろんな犯罪っていうか、車上狙いとかある中で、不審者がピックアップされているのは、どうしてなのでしょう。

小野防災管財課長：そうですね。防犯の部分になると、警察の所管で行われるという、なかなか難しいところがあります。勿論、空巣等が発生していれば防犯パトロールっていうのもありますが、女性とかお子さんとか、弱者の方の事案っていうのを減らして、安全な町っていうところを、今の計画上掲げています。そういったところから、声かけ事案っていうことで、テーマを絞らせていただきました。今度の計画では、女性とか子供っていう括りより、警察の方で声掛け事案っていうひと括りで、男性、女性に関わらず、事案が出ないように、声掛け事案に絞っているところです。

茅場委員：はい、分かりました。それだけピックアップされて、この地区が多いのかなと感じました。

小野防災管財課長：そうではないです。美里は安全な町ですので、逆に1件、2件発生すると、問題になるような感じの地域だなんて思っています。やはり、防犯自治協会とか、防犯協会、PTA中心で学校の登下校や中学校の部活帰りとかをテーマに行っているところです。

茅場委員：分かりました、ありがとうございます。

佐々木生活環境部会長：では、予定時間時間の90分が経ちましたので、今日はこれぐらいにさせていただきます。次回ですね、政策の9と11をやりまして、最終的に全部、見直すということになります。

これで今日も終わりじゃなくて、みなさんは、それぞれの関連団体の代表でもありますので、会

議の中で喋っている時に、これはこうだなと思いついたりした場合に、コメントいただければと思います。今回は、ただ総合計画なので、細かい話はここには入ってきません。それは、ぶら下がりの計画なので、あと実施計画でやっていくことになると思いますが、大枠の部分で、今日みたいな形で、次回も議論をさせていただきながら、反映できるような作業になるのかなと思います。

私の進行は以上とさせていただきます。ご協力いただきまして、ありがとうございました。

では、町民生活課長に戻します。

菊地町民生活課長：はい、長時間に渡り、審議の方ありがとうございました。本日は、これで終わりということになります。次回は、皆様のお手元にお渡ししたと思いますが、7月28日10時からになります。場所は、この場所となりますので、ひとつよろしくお願いします。どうも、ありがとうございました。

同：お疲れ様でした。

審議終了

—午前・午後3時30分 終了—

作成者 町民生活課 菊地 卓昭

上記会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。

令和2年 月 日

委員 _____

委員 _____